

## まちなかから まちづくりを仕掛ける

「30歳になったら家業を継ぐという約束があった。それなら、それまでに自分の手で何かを作りたい、帰ってから何か活かせることがしたい」と考えながら「ごしてきた」と話す今井さん。東京でマスコミ関係の仕事をしてきた頃から、心の中には、「まちづくり」への想いがあったそうです。



活動拠点の花月楼 (傘天井)



今井三偉さん (30) 郡町2

千葉県や新潟県にて、スポーツを通じたまちづくりに取り組む。2015年にUターンし、勝山市観光まちづくり会社のマネージャーとして活躍中

勝山に戻ってからは、家業の仕事に携わりながら、今年の春から勝山市観光まちづくり会社で働いています。

現在は、マネージャーとして、DMO関係の仕事(観光地域づくりの舵取り役を担う法人の候補として、今年観光庁から認定、ジオターミナルの運営に携わる仕事など、これまでの経験を活かしながら、花月楼を拠点にまちづくりを仕掛けています。

今後については、「若い人が働けるそんな機会を創造したい。また、勝山にある、歴史的価値がある家や有名建築家が建てた家などを利用した民泊の事業をしてみたい」と勝山の魅力を活かしたまちづくりについて語っていました。

## 農業と自由な時間を楽しむ



農園にてトマト栽培

「農業は、担い手がおらず、衰退しているイメージが強かった。しかし、勝山市の農家さんは、すくなく元気」と勝山で農業を始めて驚いている澤村さん。

現在は全部で12棟のハウスで農作物を栽培しています。夏はメロンを一本一果で丹精込めて栽培し、今の時期は、トマト(華ロイヤル)や小カブ、ホウレン草、これからは勝山水菜などを作るそうです。「良いものができ、おいしいと言ってもらえると嬉しい」と農業のやりがいについて笑顔で話しました。また、「勝山で農業を始めて8年目を迎え、ようやく販売量がよめる



バンド「mellones」

澤村真司さん (46) 若猪野

大阪府で精密機器のエンジニアとして勤務。2010年に勝山へUターンし、農業に従事。大久保さんも農園で働く。

ようになつてきた。農業は、自然との闘いであり、毎年が勉強」と面白くも厳しい農業に向き合っています。

今後については、「観光農園を開きたい。大勢の方にメロンやトマトなどを味わってもらえたら」と笑顔で話していました。

また、「農業は、時間を有効活用できる。それも農業の魅力」と話す澤村さんは、バンド活動を趣味に持ち、2年前に結成した仲間と、近所のライブができるお店で、バンド活動を楽しみ、勝山市の生活を満喫しています。

## 恵まれた環境で子育てと地域交流



子どもたちとDIY

「全国でもトップレベルの学力だけでなく、優しい子どもがたくさんいる。学校の雰囲気もいいからかな」と話す北村さん夫妻。3人のお子さんのことがとても気がかりだったそうです。が、転校して数日後、友達が家に遊び来て、仲良くしている風景を目の当たりにしたとき、嬉しさと勝山の良さに触れたそうです。

また、「勝山は、以前住んでいた地域と比べ、安心して外で遊ばせられる環境が充実している」とも話され、気軽に公園に行け、キャッチボールができるという環境は、恵まれているそうです。

仕事に関しても不安があったそうですが、現在は、市内の量

## 勝山の魅力をご案内



花月楼おさんぼガイドでまちなか案内

「富山県で、勝山市のことを聞かれたとき、答えられなかった。地元なのに知らないことがあることに気づかされ、もっと勝山について知りたいと強く思うようになった」と故郷への想いが膨らんだと話す笠松さん。また、近所の方から「いつ戻ってくるのか」「はやく帰っておいで」など声を掛けてもらったことがすくなく心地よく、嬉しかったそうです。地区の方の後押しもUターンした大きな要因になったそうです。

勝山に戻ってからは、勝山市民大学(現市民総合大学)で歴史を中心に学び、博士を取得。また、かつやまふるさと検定の各部門を受験し、見事合格した



北村 聡亨さん (40) 下毛屋  
沙恵美さん (40)

聡亨さんの実家がある長崎県から今年の春、家族5人で移住。沙恵美さんは平泉寺町出身。

産家具作りの仕事に従事しています。もともとは違う分野の仕事をしていましたが、「以前子どもたちと一緒に、自転車小屋を作った時、物作りのおもしろさに触れ、いつか家具作りをしたいと想うようになった」と家具職人に向けた一歩を踏み出しています。休日には、子どもたちと一緒にDIYを楽しんでいます。

北村さんご夫妻は、早く地域に馴染みたいとの想いもあり、地域の活動には積極的に参加しています。「地区の方はとても親切でたくさんのお話を聞いています」と交流を楽しんでいる様子で、今後は、「同じ世代の方とももっと交流したい」と話していました。



笠松誠一さん (63) 沢町2

富山県を中心に金融関係の仕事に従事。2009年に勝山へUターンし、勝山市ジオパークガイドの会会長などで活躍中

「ガイドをしていると地区の方からいろんなことを教えてもらえる。観光で来られた方の感想も勉強になる」と活動している最中でも熱心に学んでいます。

今後については、「ガイド仲間を増やしたい。また大勢の方にツアーに参加していただき勝山の魅力を知ってもらいたい」と、勝山の魅力発信に意欲を見せていました。